

大阪の成長戦略

大阪は“日本の成長エンジン”です



成長のための 5 つの源泉

1. 内外の集客力強化
2. 人材力強化・活躍の場づくり
3. 強みを活かす産業・技術の強化
4. アジア活力の取り込み強化・物流人流インフラの活用
5. 都市の再生

25年1月版

大阪は“日本の成

～「外需^{*1}を稼ぐ」

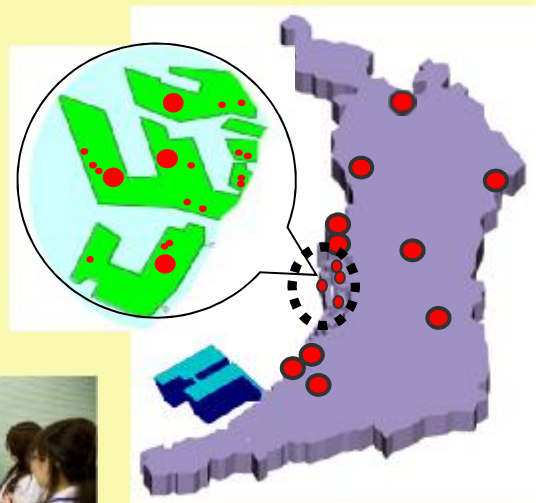
めざす将来像

ハイエンド^{*3}都市

(価値創造都市)

大阪・関西の強みをさらに磨き、
高い付加価値を創り出す都市

- ◆先端技術産業の集積
- ◆高度専門人材の育成・集積・交流
- ◆国際標準の競争環境の整備



● 大阪に最近立地した主な工場・研究所等

中継都市

アジアと日本各地を結び、
集積・交流・分配機能を発揮する都市

- ◆アジアと日本各地をつなぐ玄関口
「関西国際空港」「阪神港」
- ◆ヒト・モノ・カネの集積・交流、各地への分配



(大阪港振興協会提供)



アジアから
日本各地へ

関西国際空港
阪神港

日本各地からアジアへ

*1 海外からの需要。国内製品の外国への輸出や、外国人観光客の国内消費など。⇔内需

*2 国内需要。国内での消費・設備投資など。⇔外需

*3 高品質であることから付加価値の大きなもの。高付加価値。

*4 品質がよいことなどによりモノやサービスの価値が高いこと。

*5 「実質経済成長率」の略。府域の経済規模の変化を示す指標。(物価の変動分を除く。)

*6 参考:大阪の観光戦略=「2020年に訪日外国人旅行者650万人が大阪に」の目標達成に向けた取組戦略。H24.12月策定。

*7 国際標準(20フィートコンテナ)の海上貨物用コンテナを1単位とした貨物量を表す単位。

長エンジン”です

「内需^{*2}を生み出す」～



「大阪の成長戦略」とは

～大阪が再び力強く成長する都市となるために～

長期低迷を続ける大阪。
東京圏等への人口・企業流出、税収の落ち込み、
地価下落、高い失業率…

このままでは、世界の中、アジアの中での
都市間競争に勝てません———。

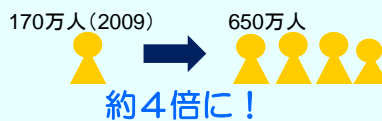
大阪・関西が抱える課題を分析・検証し、
今後10年間の成長目標を掲げ、
その実現に向けた短期・中期(3～5年)の具体的
な取組方向を明らかにします。

成長目標

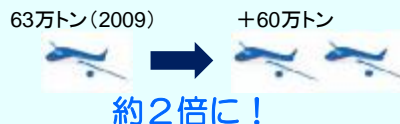
◆実質成長率^{*5}
年平均2%以上
10年間で経済規模を2割拡大！

◆雇用創出
年平均1万人以上
10年間で10万人以上の雇用創出！

◆訪日外国人(2020年)
年間650万人が大阪に^{*6}



◆貨物取扱量(2020年)
関空60万トン増



◆阪神港190万TEU^{*7}増
400万TEU(2008) → +190万TEU
約1.5倍に！



成長のための5つの源泉

- ・高付加価値^{*4}・技術革新の創出
 - ・対内投資の呼び込み
 - ・消費・雇用の拡大
- につなげるため、既存資産(ヒト・モノ・カネ)を活用し、
大阪・関西がもつ“強み”“優位性”を磨きます。

物流・人流
インフラ

都市の再生

